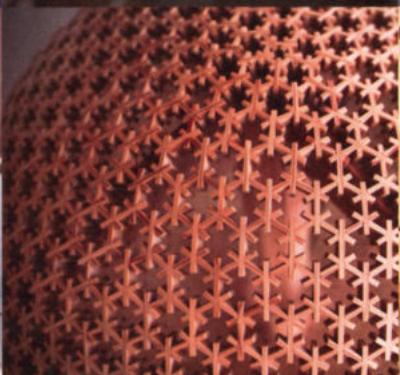


安来市
伝統工芸

手
作

WAZA KOGEI



発刊にあたって

安来市は、歴史や文化にあふれているまちで、山陰の覇者・戦国大名尼子氏の本拠地として栄えた歴史や、どじょう掬いで有名な民謡安来節などの芸能があります。また、伝統的な技法を取り入れた工芸品が多く存在し、現在もその技術は引き継がれています。

そこで、このたびは『島根県ふるさと伝統工芸品』に指定されている安来市内の11事業者をピックアップし、紹介をするためのパンフレットを作成しました。

島根県ふるさと伝統工芸品とは…

島根県内の伝統工芸品の振興を図るために、昭和56年に制定した「島根県ふるさと伝統工芸品振興要綱」に基づき、島根県知事が指定するものが「島根県ふるさと伝統工芸品」と指定されます。

平成31年3月末現在、島根県全体では65品目95業者が指定されています。

①野白木工所



代表者名:野白千晴
住所:〒692-0011 安来市安来町東十神2146
連絡先:0854-22-2908
販売場所:本店

昭和26年、父・野白國雄が安来で開業し、河井寛次郎、遠藤小間野、安部栄四郎などの民芸作家と出会い民芸家具の制作に取り組んだのが始まりです。

神社仏閣などの建築用材や高級な調度品の材として、古くから重宝してきた「檜」を釘やネジなどは極力使用しない接合方法である「指物」を用いたその技法と、民芸に基づいたデザインが評価されて「安来タンス」として認められてきました。



制作してきた家具類は、檜の木目を最大限に活かした作りとし、仕上げは生漆を何度も塗り重ねて、木目を際立たせています。



②広瀬和紙製作所

代表者名:長島 紲

住 所:〒692-0412 安来市広瀬町下山佐2652

連絡先:0854-32-3863

販売場所:本店(工房)、観光交流プラザ(安来駅隣接)

道の駅広瀬・富田城、広瀬絢センター、安来

節演芸館、加納美術館、島根県観光物産館(松

江市)

広瀬町下山佐で父祖代々紙業を営み、昭和36年4月安部栄四郎先生の指導を受け、以来12年その間技術、純粹な和紙製作を志し、昭和48年5月よりこの経験を生かし、「広瀬和紙」の製作を自宅に於いて始めました。

原料の三桠は繊維明朗でペン書や書籍印刷に適しており、楮は、素朴でありながら強靭な性質を持っています。また、雁皮は変色せず、虫に侵されず、水に漏れても破れないため、古くから重要書籍に用いられます。それぞれの特徴を最大限に生かし、丹精込めた手漉きの和紙です。



③広瀬絢センター (広瀬絢伝習所)



代表者名:永田佳子

住 所:〒692-0402 安来市広瀬町町帳775-1

連絡先:0854-32-2575

販売場所:本店(広瀬絢センター)・島根県観光物産館

(松江市)・広瀬絢藍染工房(松江市)

広瀬絢は、文政7年(1824年)に町医 長岡謙祥の妻貞子が伯耆国米子町で絢の染織法を伝授されたのが始まりとされています。その後、広瀬町内の女性たちの間で広まり、明治時代には町の一大産業に発展し、全国に販路を広げました。

広瀬絢は大柄の絵文様を得意とした正藍染・手織の木綿の織物で、精巧な絵模様や幾何文様を組み合わせて、くっきりと浮かびあがるように織り上げてあり、洗うほどに風合いが増します。



○藍染め体験できます!

思い描いた文様のオリジナルハンカチなどを作ることができます。

※体験料:800円

※要予約



④出雲広瀬方円窯

代表者名:亀尾志郎

住 所:〒692-0412 安来市広瀬町下山佐2534-1

連絡先:0854-32-3933

販売場所:本店(工房)、道の駅広瀬・富田城(広瀬絢センター)、道の駅あらエッサ、加納美術館

方圓窯は、陶芸家の亀尾志郎氏が、茨城県、京都府などで修行を重ねた後、昭和54年に島根県安来市広瀬の須谷に開窯しました。

搔落しの技法や鉄絵粉引で描いた草花などの文様はのびやかさが特徴で、一目見たら方圓窯だと分かる個性的な焼き物作りを目指しています。

作品は亀尾氏独自の個性を生かした生活陶器(茶器、花器、食器、陶彫)を主に取り扱っています。



⑤鍛冶工房弘光

代表者名:小藤洋也

住 所:〒692-0623 安来市広瀬町布部1168-8

連絡先:0854-36-0026

販売場所:本店(工房)、観光交流プラザ(安来駅隣接)、道の駅広瀬・富田城(広瀬絢センター)、インターネット通販

雲州弘光(現:鍛冶工房弘光)は江戸時代(天保年間)のたたら操業を源流に、打刃物、小農器具、生活用具に加え刀剣鍛錬の道に励みました。

丹精を込めた「日本刀鍛錬の技」を生かした作品の制作をてがけ、日本古来の鐵によるあかり器具の復元とともに、移りゆく現代の暮らしに彩を添える用と美のしつらえをご提案しています。

本来は硬く冷たいはずの鉄から、やわらかさと優しさ、あたたかさを感じていただけました幸いです。



⑥錦山焼窯元



代表者名:中島剛史

住 所:〒692-0023 安来市黒井田町 1987

連絡先:0854-22-2627

販売場所:本店・観光交流プラザ(安来駅隣接)

1854年に創業され、150年以上の歴史のある錦山焼は、辰砂釉による多彩かつ繊細な色合いを醸し出しているのが特徴です。焼き加減により、微妙に仕上がりに変化が生じるため、非常に細やかな神経が注がれます。



そうして完成した品物

は落ち着いて鮮やかかつ独特な色彩を放ちます。茶器を始めとする伝統工芸品から日用食卓品まで製作されています。



⑦内田線香店

代表者名:内田貴子

住 所:〒692-0623 安来市広瀬町布部 186

連絡先:0854-36-0178

販売場所:本店・観光交流プラザ(安来駅隣接)

近年、線香の製造は機械化が進む中、内田線香店の線香は手作りで作られています。香料を使用せず、国産の杉の葉の粉末を主原料として使用しているため、自然な杉の香りを楽しんでいただけるという特徴があり、また、お寺などで使用する線香として、通常よりも太い

サイズのものなど特別な注文にも対応しています。清流が流れる布部で一本一本手作りされた杉葉線香を是非ご堪能ください。



いす も おり おり もと

⑧出雲織織元

代表者名:青戸柚美江
住 所:〒692-0053 安来市沢町317-1
連絡先:0854-22-6777
販売場所:本店・(社)島根県観光物産館

出雲織は、弓浜絣の技法を駆使し、手紡ぎの木綿糸などを藍・草木などの天然染料で染め、手織りで主に着尺・帯地・テーブルセンターを作っています。伝統を踏まえつつ、新しい発想を自由に取り入れ、また豊かな自然に題材の想を得て、古法をたくみに取り入れ存在感のある着こなしを叶えます。洗うことを繰り返すことで深みが出てくるのも特徴です。



やす ぎ おり おり もと

⑨安来織織元

代表者名:遠藤京子
住 所:〒692-0011 安来市安来町1397
連絡先:0854-22-2578
販売場所:本店

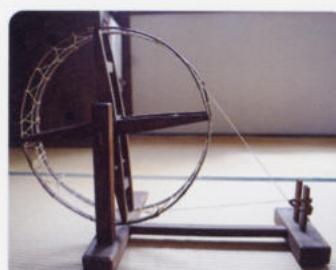
安来織は、よこ糸に絣を織った絣縫です。

安来織の創始者遠藤小間野は当初、絹織ネクタイを織っていました。戦時中、絹糸が手に入りにくくなつたため、綿の絣織に挑戦し、現在の安来織となりました。絣はよこ糸として、手で括らせ、藍で染め、織り上

げます。民芸運動をしていた河井寛次郎代からアドバイスを受けながら製作し、「安来織」と名付けて頂きました。

安来織の代表的な柄は、棟方志功代の描いた觀音様が図案となっています。

綿の持つ素朴さと手織りの暖かみが特徴です。



⑩天野紺屋



代表者名:天野 尚
住 所:〒692-0404 安来市広瀬町広瀬968
連絡先:0854-32-3384
販売場所:本店・えすこ(出雲市)・今井書店田和
山店(松江市)・ティズクレイ(米子市)

はた織りの糸を染める紺屋として1870年創業しました。今は伝統的な糸染めとオリジナル模様での布染め、手ぬぐい、髪留め、がま口などの生活雑貨を制作しています。ストールやTシャツを染める藍染教室も行なっています。

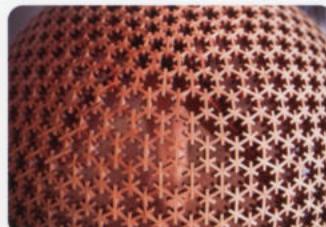
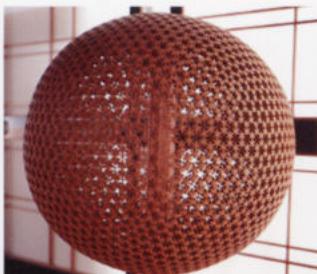


⑪ウッドアート門脇

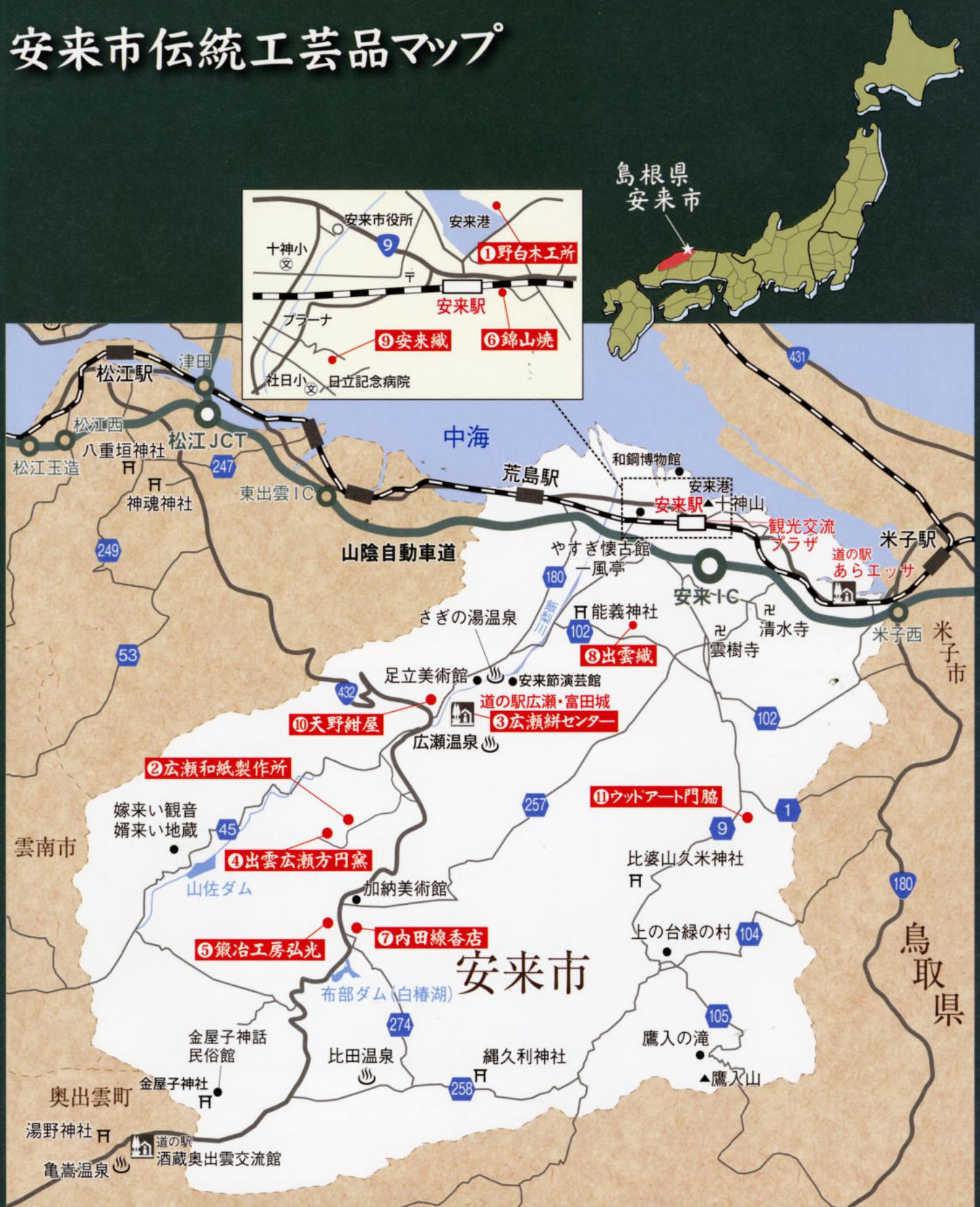


代表者名:門脇和弘
住 所:〒692-0213 安来市伯太町井尻55
連絡先:0854-37-1302
090-4573-0941
販売場所:本店(アトリエ)

組子細工とは、江戸時代から続く伝統技法で、釘などを使わず薄く細かい木の板を組み上げて^{ひいたで}衝立や屏風などを手作業で制作します。門脇和弘さんが作る組子細工は縦と横を組み合わせた直線的なものだけではなく、斜めも組み合わせることで曲線を活かした丸みのある作風が特徴です。



安来市伝統工芸品マップ



安来市役所 商工観光課

〒692-8686 島根県安来市安来町 878-2
TEL0854-23-3110 FAX0854-23-3061